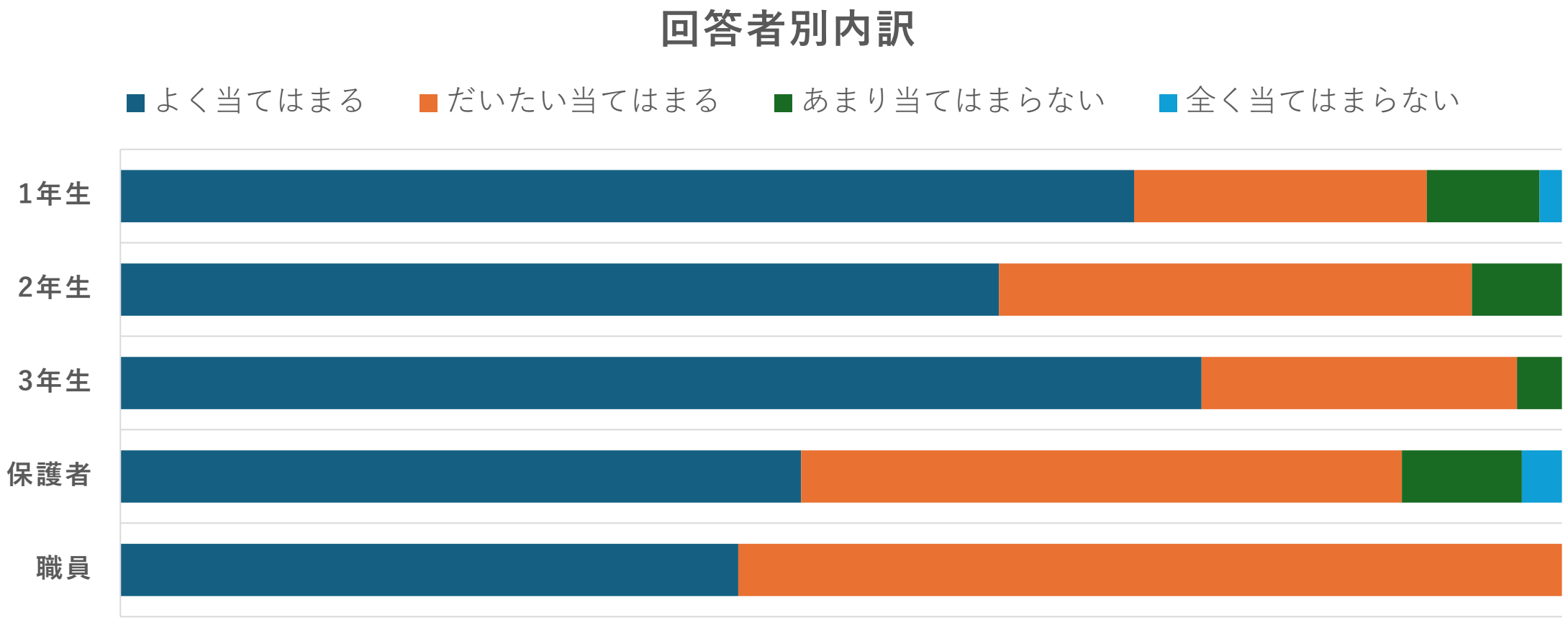
Ｒ７年度
学校評価アンケート

集計結果と考察

1 【学校生活】
生徒は、安心して楽しく学校生活を送ることができている。



①【学校生活】安心して楽しく過ごせている

Ａ：見えること

➡全体として非常に良好

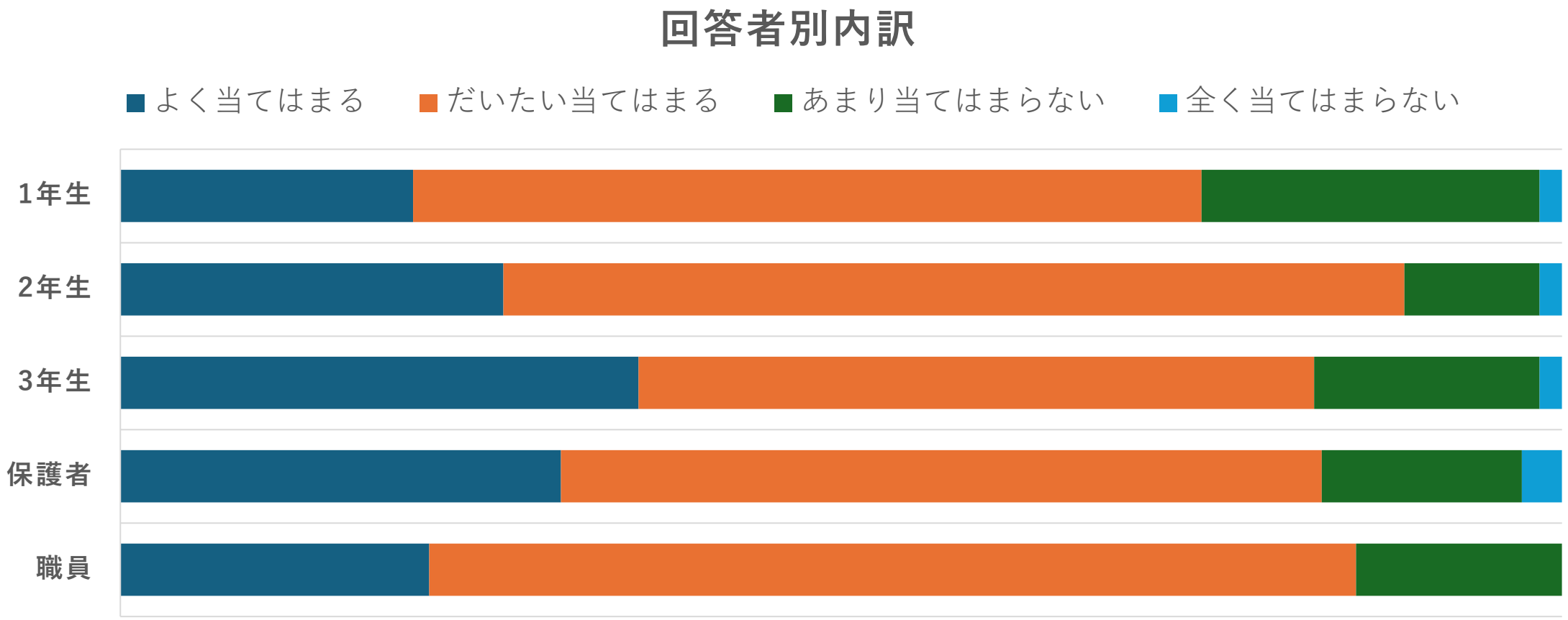
Ｂ：改善点

➡１年生が相対的にやや低め

Ｃ：対応方法

➡現状を崩さないように努める

２【能力発揮】
生徒は、もてる能力を十分に発揮して生活している。



②【能力発揮】もてる能力を十分に発揮

Ａ：見えること

➡特に１年が75.0％で低い

Ｂ：改善点

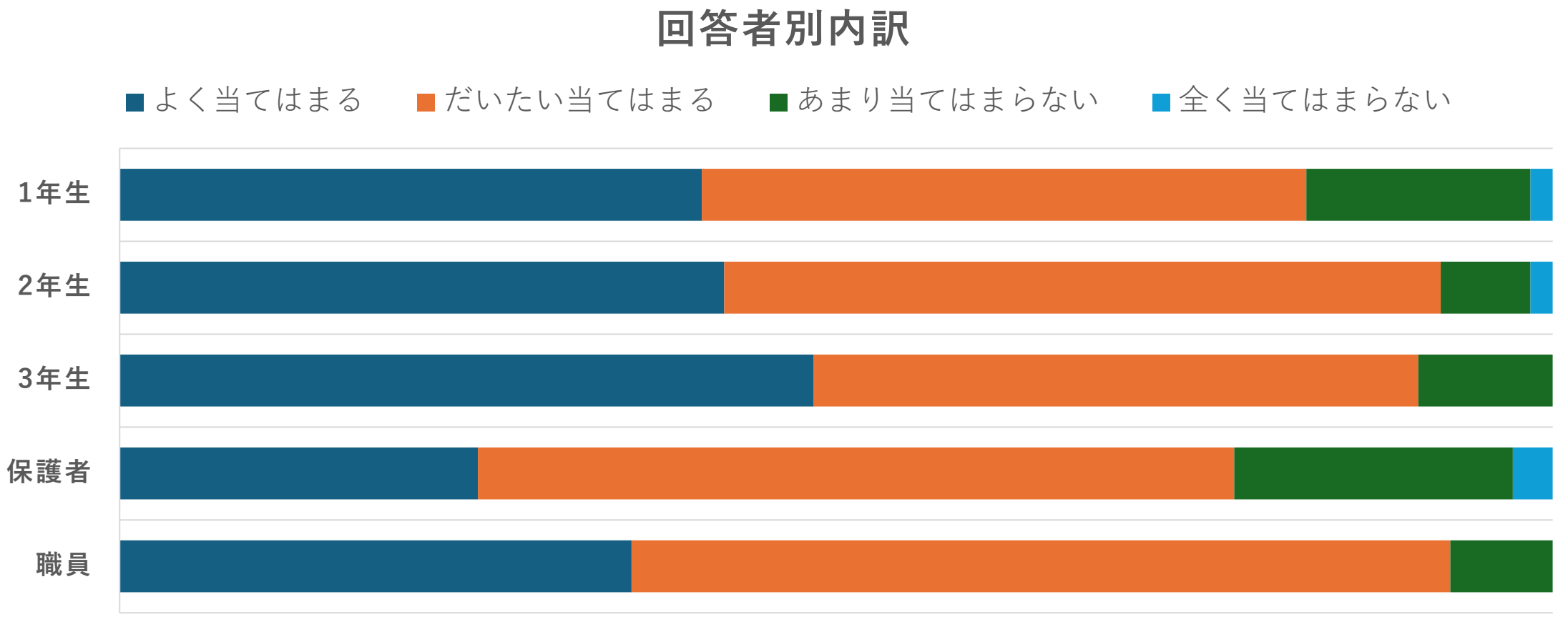
➡１年生で「成功体験」や「めあての見える化」が不足気味

Ｃ：対応方法

➡支援が必要な生徒の早期共有をしているので、
個別の声かけを増やす

➡教科指導での成果を上手くフィードバックし、
自己理解の向上につなげる

３【授業】
授業は、友達と学び会いながら、
分かりやすい内容になっている。



③【授業】学び合い・分かりやすさ

Ａ：見えること

➡授業の良さが外側に十分伝わっていない可能性

Ｂ：改善点

➡授業方針・学習活動の外部への説明不足

（授業だより、評価の観点、課題の目的）

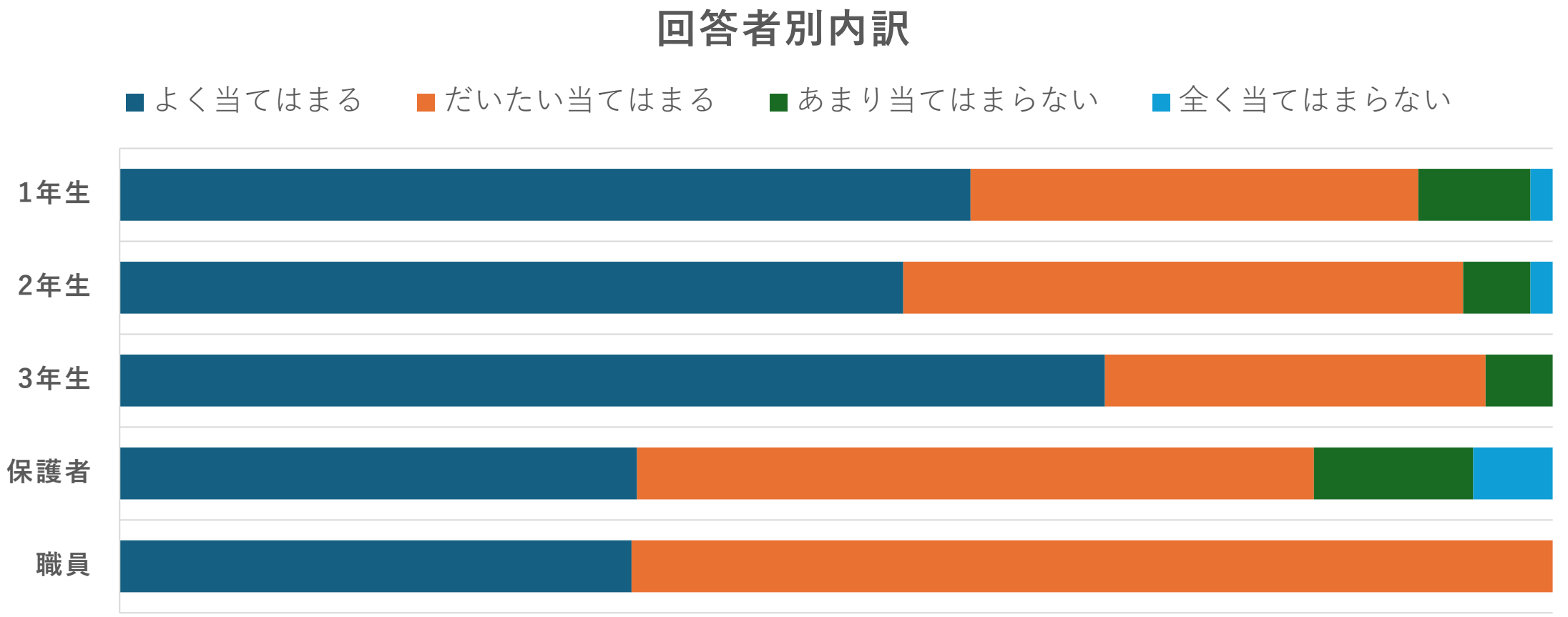
Ｃ：対応方法

➡授業公開の充実について計画化を検討

➡方針を発信する機会を増やす

4 【道徳】

道徳の授業では、他人を思いやる心や認め合う姿勢を身に付けたり、自分を見つめ直したりする機会が設定されている。



④【道徳】思いやり・認め合いの機会

Ａ：見えること

➡授業自体は高評価、保護者側はやや控えめ

Ｂ：改善点

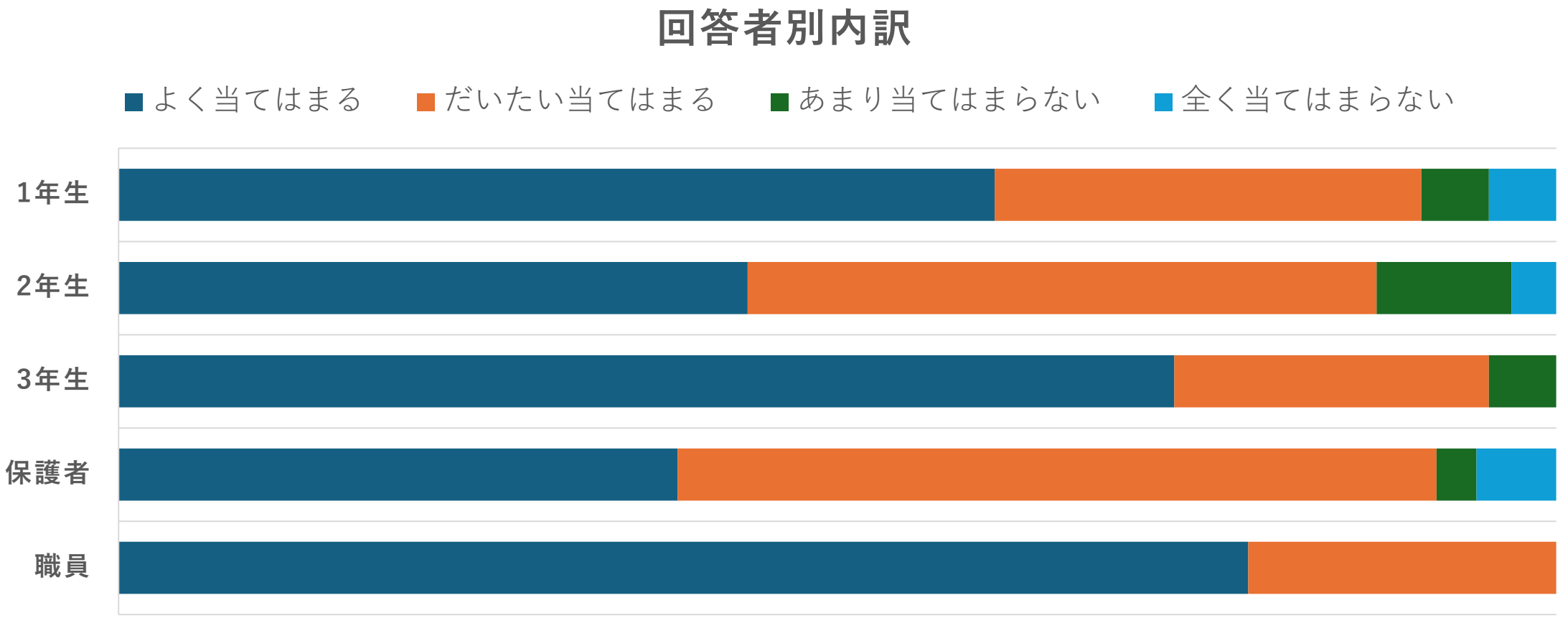
➡道徳の学びが行動変容にどう繋がるかを
家庭でも実感できる形に

Ｃ：対応方法

➡学校に関する家庭対話を増加させる働きかけ

➡学校通信などに掲載

5 【教育相談】
生徒に、親身になって相談事に応じている。



⑤【教育相談】親身な対応

Ａ：見えること

➡2年生 87.5%が相対的に低め

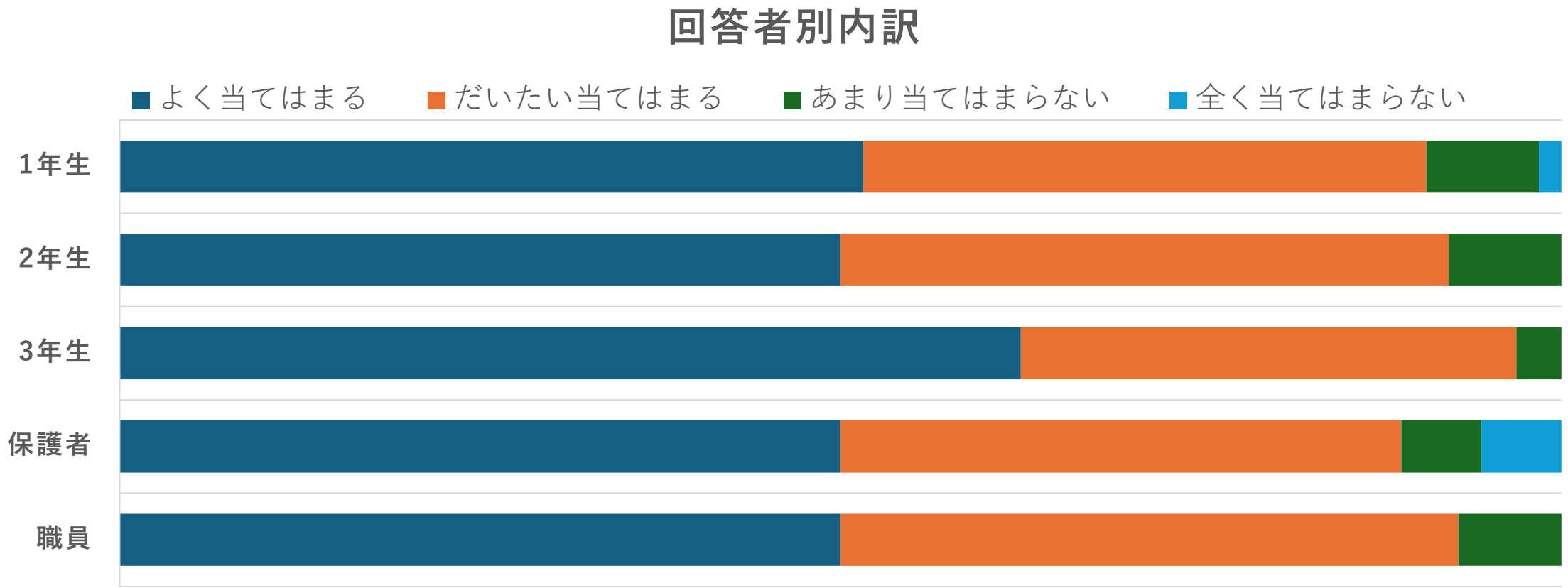
Ｂ：改善点

➡2年生での相談窓口の周知と敷居の低減

Ｃ：対応方法

➡教育相談の時間に余裕をもたせるなどの
改善を検討する

6 【生徒指導】
あいさつや身だしなみ、時間や約束を守ることなど、基本的生活習慣を身に付けるための指導ができている。



⑥【生徒指導】（あいさつ・身だしなみ・時間・約束など基本的生活習慣

Ａ：分析から見えること

➡全体に良好だが、１年生と保護者が相対的に低め

Ｂ：改善点

➡１年生：できた行動の即時承認がやや不足

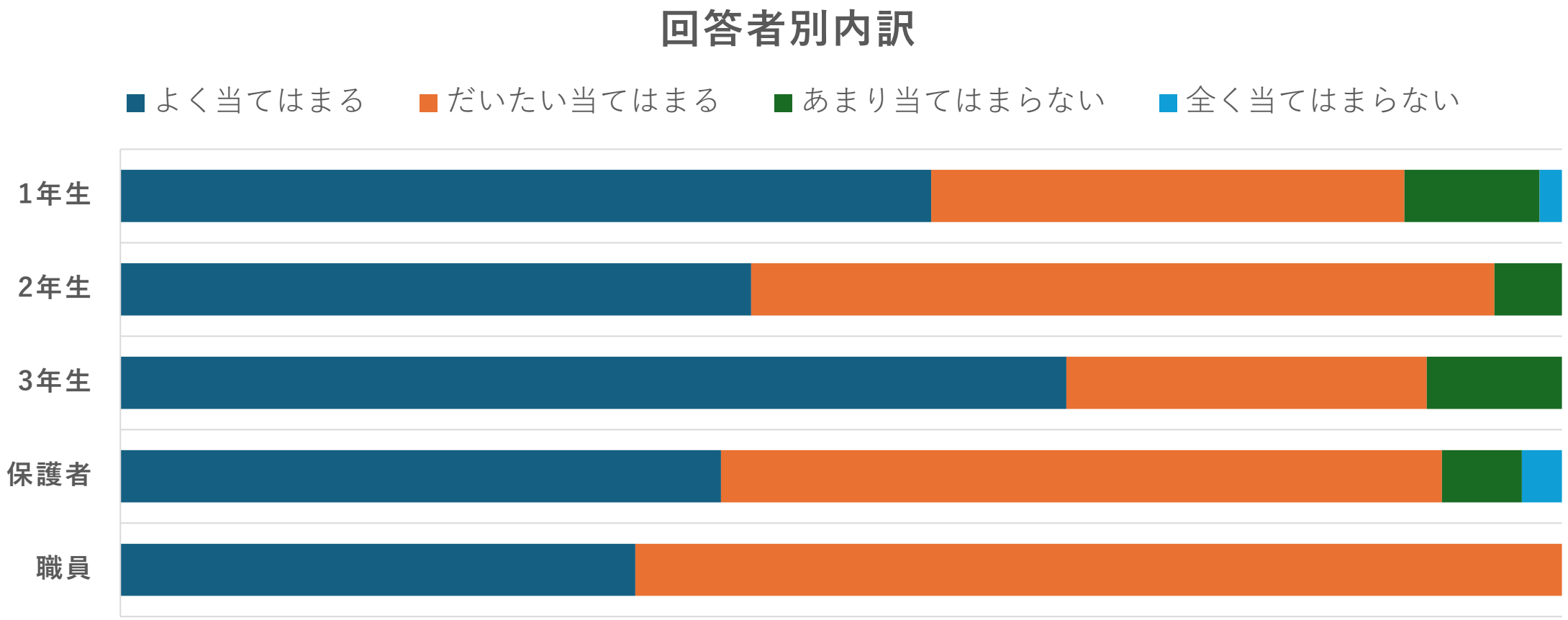
➡保護者：規範の基準・指導の流れが家庭から見えにくい（身だしなみ等）説明と例示の不足が評価に影響

Ｃ：対応方法

➡達成できたことに対する承認の場面を増加させる

➡保護者への指導方針周知と理解を促進する

7 【保健】
生徒は、心身の健康に気をつけて、学校生活を送ることができている。



⑦【保健】健康に気をつけて生活

Ａ：見えること

➡相対的に低め。

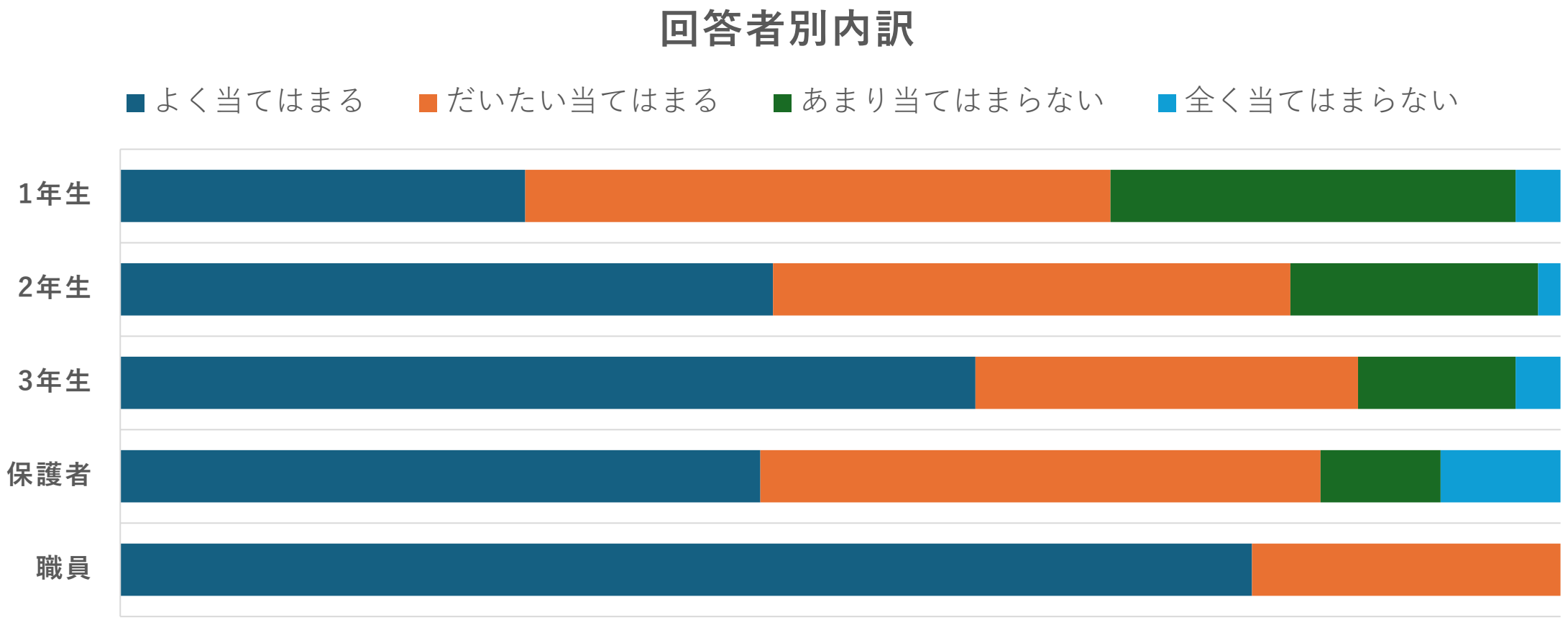
Ｂ：改善点

➡入学期の生活リズム・スマホ利用・睡眠に係る指導の強化。

Ｃ：対応方法

➡生徒委員会などで、健康への意識を高める活動を強化する。

８【連絡】
学校は、学校の方針、連絡や様子を、保護者に伝えている。



⑧【連絡】方針・様子の伝達（保護者向け）

A：見えること

➡全体で最も課題感が出ている領域の一つ。

B：改善点

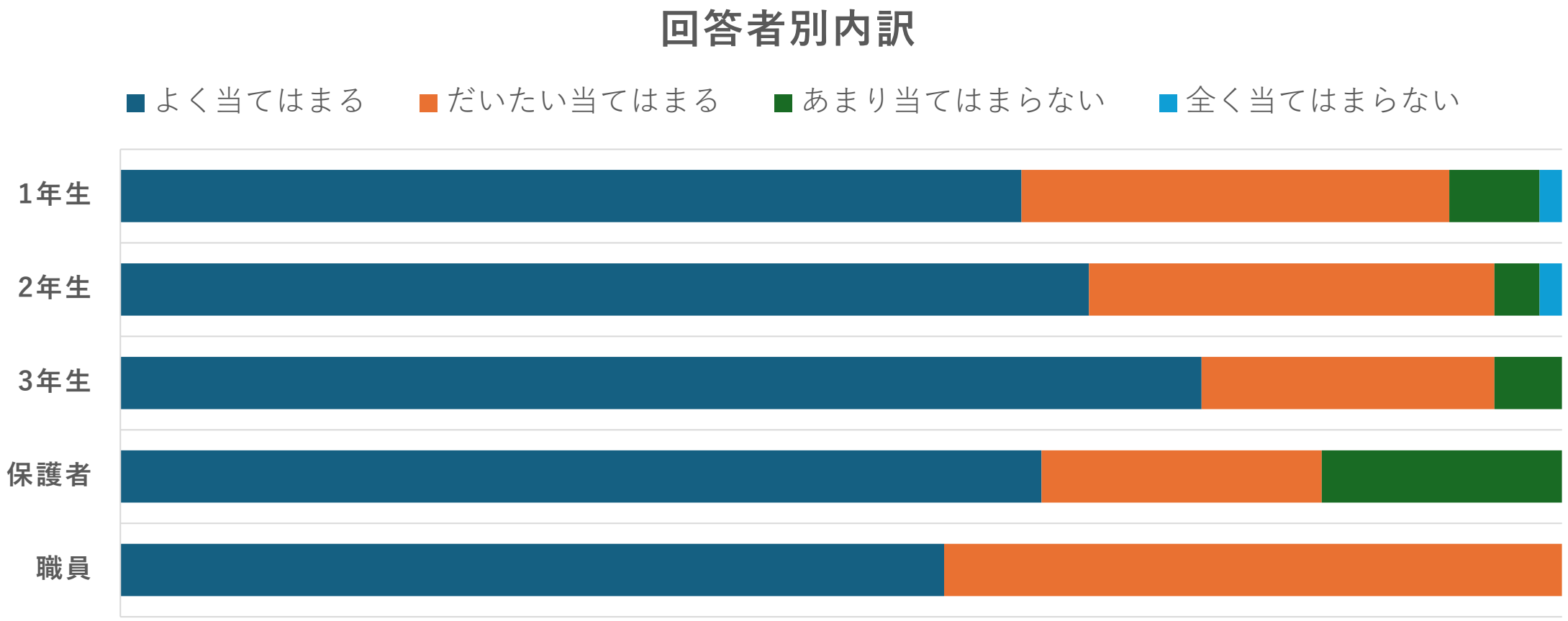
➡家庭内での学校資料(各種配付書類)の共有・確認がされていないこと。

C：対応方法

➡連絡・確認のお願いを教化

➡来年度、インターネットアカウントに関する変更予定。アクセスの再確認・効率化を実施。

９【体育的行事】
体育大会は学級の団結力を高め、体力を高めることのできる機会として有意義である。



⑨【体育的行事】体育大会の有意義性

Ａ：見えること

➡高評価

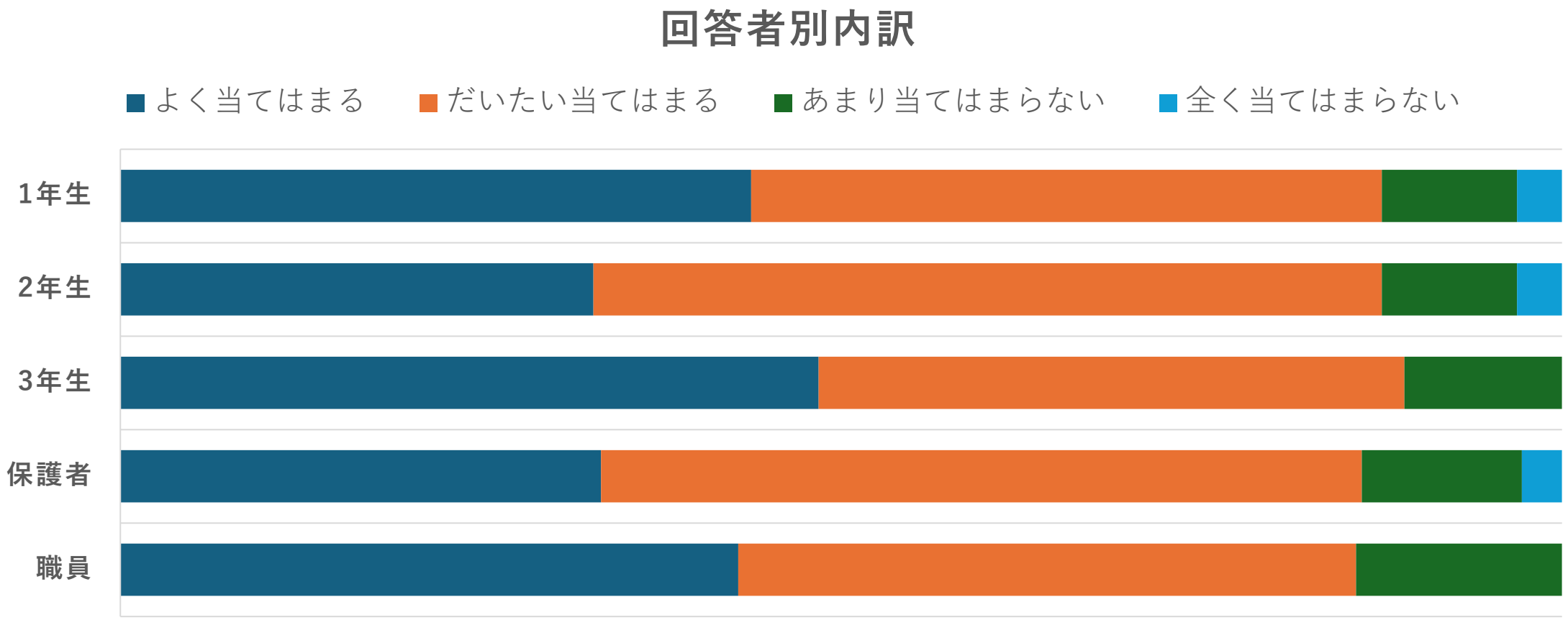
Ｂ：改善点

➡全体の運営方法と生徒の主体性の向上

Ｃ：対応方法

➡全体の活動内容を再検討していく

１０【環境行事】
花いっぱい活動や地域奉仕活動は、豊かな心を身に付ける機会として有意義である。



⑩【環境行事】花いっぱい・地域奉仕の有意義性

Ａ：見えること

➡全体は良好

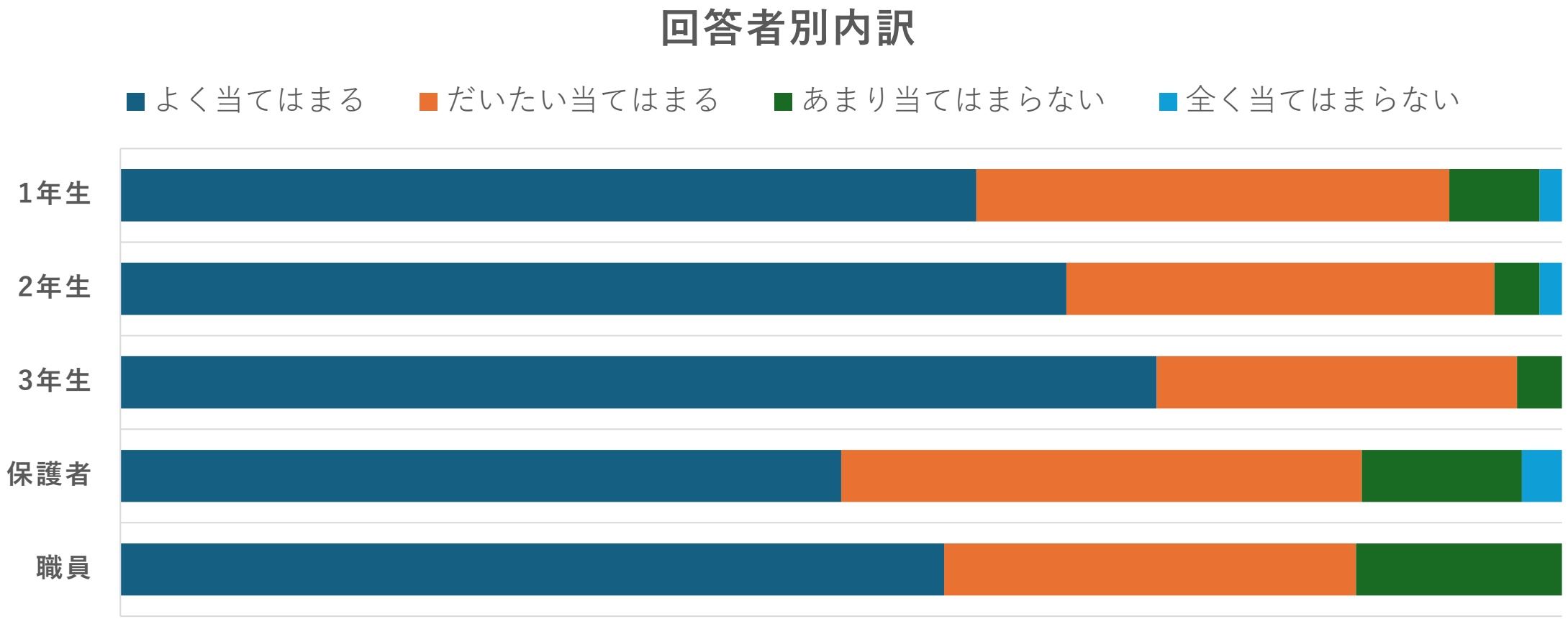
Ｂ：改善点

➡活動の学習的意義の可視化がやや弱い

Ｃ：対応方法

➡活動前後に振り返りカード（社会参画・協働・責任などの観点）を設定するなどの方法を検討

１１【文化的行事】
合唱コンクールや作品展は、学級の団結を高めたり、互いの努力や能力を認め合ったりする機会として有意義である。



⑪【文化的行事】合唱・作品展の有意義性

A：見えること

➡全体的に高い

B：改善点

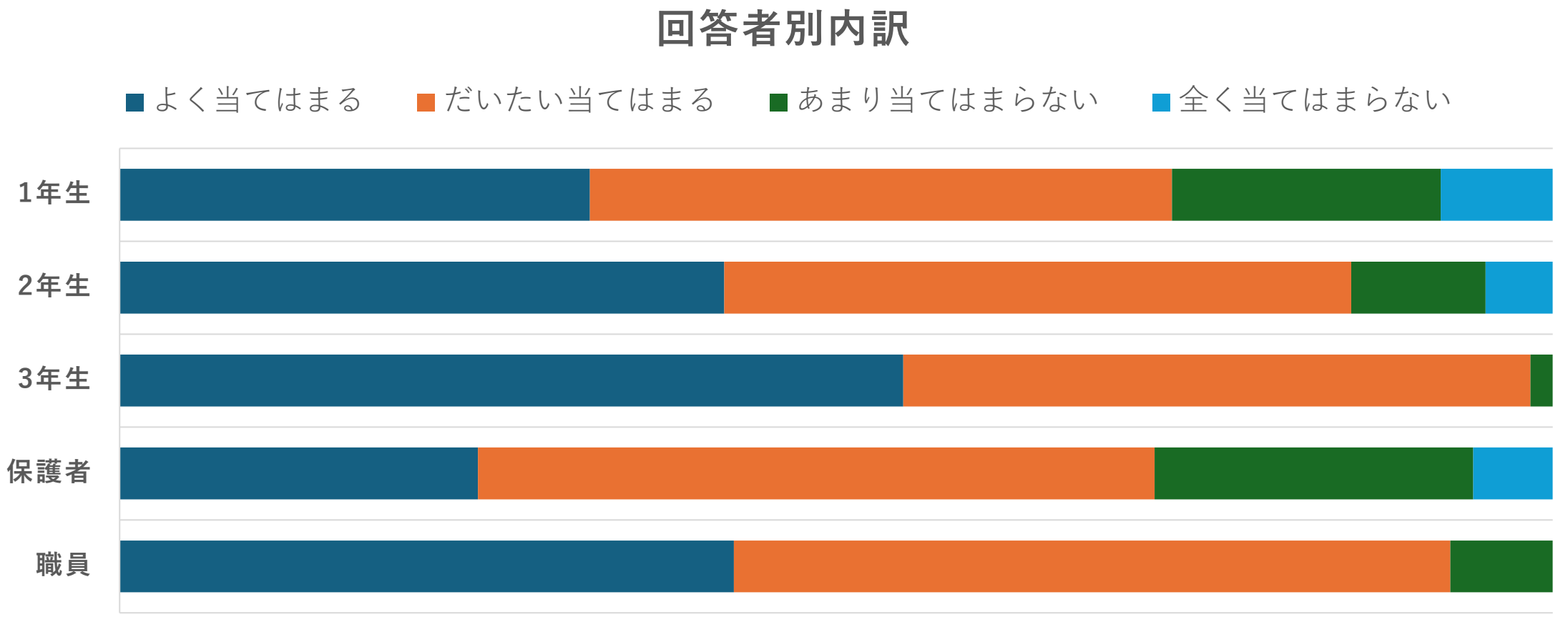
➡作品：オンラインのみでは見えにくいとの声

C：対応方法

➡合唱：現状を維持する

➡作品展：実施そのものの意義等を検討

１２【キャリア教育】
生徒は、進路について考え、自己決定しようとしている。



⑫【キャリア教育】進路の自己決定

A：見えること

➡保護者72.2％と低め

B：改善点

➡低学年で進路を考える場・語る場が不足

➡保護者側の情報不足・関わり方の不安も示唆

C：対応方法

➡1年次からキャリア指導の場を増加している

引き続き内容を充実させていく

来年度につなげる３つの視点

- 学年差のある領域の底上げ
- 家庭との連携の強化
- 学習・生活の基盤づくり